

令和2年度 病院事業局当初予算要求事項

病院事業局

今後の医療需要の増大・高度化を見据えた社会保障制度改革等の環境変化に適切に対応していくとともに、厳しい医療環境の下でも県立病院としての役割を果たしていくための医療機能の強化、経営基盤の強化に取り組む予算案を策定。

1 当初予算要求総括表

(1) 病院事業会計

(単位：千円，%)

区分	令和元年度 当初予算額 ①	令和2年度 当初要求額 ②	比較		備考	
			②-①	②/①		
病院事業収益 a	26,740,120	27,620,374	880,254	103.3		
内 訳	医業収益 b	24,606,266	25,479,518	873,252	103.5	
	うち入院収益	17,549,096	17,684,976	135,880	100.8	入院単価の増
	うち外来収益	6,362,201	7,089,422	727,221	111.4	外来単価の増
	医業外収益 c	2,103,854	2,110,856	7,002	100.3	
	特別利益 d	30,000	30,000	0	100.0	
病院事業費用 e	26,268,876	27,558,259	1,289,383	104.9		
内 訳	医業費用 f	25,697,966	27,041,141	1,343,175	105.2	給与費 +160,399 材料費 +949,275
	医業外費用 g	535,910	482,118	▲ 53,792	90.0	企業債利息▲48,421
	特別損失 h	35,000	35,000	0	100.0	
収支差 (a-e)	471,244	62,115	▲409,129	13.2		
経常収支 (b+c) - (f+g)	476,244	67,115	▲409,129	14.1		

資本的 収支	資本的収入 i	1,747,314	1,931,034	183,720	110.5	企業債+175,500
	資本的支出 j	3,546,252	3,722,596	176,344	105.0	
	うち 建設改良費	906,347	1,098,496	192,149	121.2	
収支差 (i-j)	▲ 1,798,938	▲ 1,791,562	7,376	99.6		

支出予算額 計 (e+j)	29,815,128	31,280,855	1,465,727	104.9	広島：28,964,887 安芸津：2,315,968
------------------	------------	------------	-----------	-------	--------------------------------

(2) 一般会計

(単位：千円，%)

区分	令和元年度 当初予算額 ①	令和2年度 当初要求額 ②	比較		備考
			②-①	②/①	
衛生費	2,585,530	2,599,872	14,342	100.6	
病院事業会計への 繰出金	2,585,530	2,599,872	14,342	100.6	

査定結果
要求どおり

2 取組状況と令和2年度計画

(1) 広島病院の取組状況等

令和元年度は、地域の医療機関との連携強化や、呼吸器センター、消化器センターなど専門医療センターによる高度医療の強化に取り組むとともに、ドクターカーの運用や、内科救急診療部の設置による救急患者受け入れの迅速化、防災設備の改修など災害・救急医療への対応強化に取り組んでいる。一方、平均在院日数の短縮化が進み、延べ患者数は低下傾向であるなか、医療の高度化に伴う高額薬品の使用や、高額な医療材料の利用など、医療に係る費用は増加傾向にある。

令和2年度も引き続き、救急医療の強化、地域連携の強化、がんゲノム医療の推進など高度医療の強化に取り組むとともに、収支改善にも取り組んでいく。

① 令和元年度の主な成果及び令和2年度の主な取組

<患者受入体制の強化>

項 目	令和元年度の主な成果及び令和2年度の主な取組
救急医療の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○救急車応需率向上に向けた取組 (H28.8～継続) <ul style="list-style-type: none"> ・院内の救急部会での救急患者受入要請の不应需事例の検証 救急車応需率 (H30 84.8% R1 見込 86.6%) 救急車受入件数 (H30 6,089台 R1 見込 6,108台 R2 目標 6,200台) ○救命救急センター (ICU・HCU) の効果的な活用 <ul style="list-style-type: none"> ・ICU・HCU への救急患者、院内術後重症患者等の受け入れの運用を改善 (算定件数: R1.10 (累計) 2,737件 (前年同期累計 2,464件 (前年比+275件)) ○ドクターカーの運用 (H30.7～平日日中で運用) <ul style="list-style-type: none"> ・ドクターカーで救命救急センター医師等が救急現場へ急行、処置することにより、救急患者の治療成績向上や救急隊の病院選定の負担軽減 (受入困難事例の減少と搬送病院選定の時間短縮) を図る。 ドクターカー出動件数 (H30 367件 R1 見込 586件 (1日平均2.4件)) ○内科救急診療部の設置 (H31.4～平日) <ul style="list-style-type: none"> ・内科疾患の救急紹介・救急患者 (原則救急車限定) に対する窓口を一本化し、患者の受け入れの迅速化・効率化を図る。
がん医療を含めた高度医療の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○呼吸器・消化器センターの機能の充実 (H29.4～継続) <ul style="list-style-type: none"> ・複数診療科の連携による専門センターの設置運用 (肺、消化管等の悪性腫瘍の受入強化) 新規入院患者数 (呼吸器センター H30 1,595人 R1 見込 1,707人 R2 目標 1,700人) (消化器センター H30 2,574人 R1 見込 2,700人 R2 目標 2,700人) がん患者数 (病院全体 H30 4,869人 R1 見込 5,400人 R2 目標 5,400人) ○がん遺伝子診療機能の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・がんゲノム医療中核拠点病院と連携して検査等を行なう「がんゲノム医療連携病院」の指定 (H30.3) を受け、遺伝子情報に関する検査を実施 (H30.7～) 遺伝カウンセリング (H30 23件 R1 見込 25件 R2 目標 30件) がんゲノム検査 (H30 7件 R1 見込 65件 R2 目標 200件)
地域医療連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の医療機関との連携強化 <ul style="list-style-type: none"> ・医師による地域の医療機関訪問 ・呼吸器センター、消化器センターの他の医療機関等への積極的なPR ・かかりつけ医との連携強化 (逆紹介の推進) 紹介率 (H30 93.4% R1 見込 92.2% R2 目標 93.0%) 逆紹介率 (H30 125.6% R1 見込 125.0% R2 目標 125.0%)

<医療の質と患者満足度の向上>

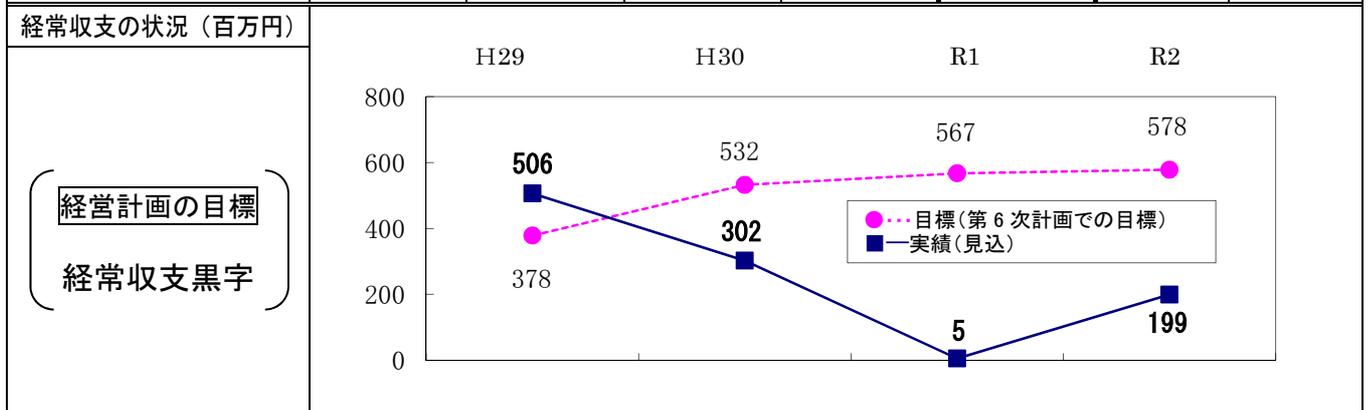
医療の質と患者満足度の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○業務改善活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・午後外来の推進などによる患者待ち時間の短縮 ・TQM活動、5S活動の推進 ・患者満足度アンケート (満足割合) (外来全体) H30 95.8%, (外来待ち時間) H30 70.0% ○ジェネリック薬品の導入促進による患者医療費負担の軽減 ジェネリック使用数量割合 (H30 77.8% R1 年見込 81.1%) ○患者総合支援センターの設置 (H30.4～) <ul style="list-style-type: none"> ・入退院関連業務を集約化し、患者、家族の入退院に関する相談等をワンストップで支援 (入退院支援件数 H30 4,703件, R1 見込 9,420件) ○携帯型翻訳機の導入 (R1.12～) <ul style="list-style-type: none"> ・外国人患者の増加に対応するため、携帯型翻訳機を導入 (3台) ○医師確保の取組 <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、医師確保に努める。
---------------	---

<収支改善への取組>

項 目	令和元年度の主な成果及び令和2年度の主な取組
増収対策の取組強化	<p>○診療報酬算定適正化への継続的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DPC機能評価係数の向上と、入院収益改善を図ることを目的とした「入院期間適正化PT」を設置し、診療科別に入院期間の適正化を実施(H31.4~) ・早期離床・リハビリテーション加算の新規届出(R1.12~)
材料費、経費等の費用の節減	<p>○材料の標準化・統一化等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬品も含め、材料の標準化・統一化を図るとともに、全国価格データによる値引き交渉や、共同購入を引き続き実施 <p>○光熱水費の節減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・院内照明のLED化による省エネルギー対策を実施し、光熱水費を節減(H30~ 電気代の節減効果の高い箇所から順次対応(6か年計画)) <p>R1:救命センター・手術室等, R2:病棟ナースステーション等(長時間点灯箇所)</p>

② 経営状況 (経営目標)

業務の状況		H30 (実績)	(A)R1 (当初)	(B)R1 (見込)	R2 (目標)	(C)R2 (当初)	比較	
							C-A	C-B
患者数 (人)	入院延患者数	199,610	210,627	199,610	225,170	204,152	▲6,475	+4,542
	病床利用率 (病床数)	80.7% (678床)	84.9% (678床)	86.3% (632床)	88.1% (700床)	88.5% (632床)	+2.6% (▲46床)	+2.2% (0床)
	外来延患者数	282,318	260,241	270,018	314,291	263,575	+3,334	▲6,443
入院単価(円)		76,753	78,071	80,216	70,000	81,584	+3,514	+1,368
外来単価(円)		21,356	22,652	23,294	18,889	25,002	+2,350	+1,708
経常収益(百万円)		23,981	24,704	24,660	24,278	25,613	+909	+953
経常費用(百万円)		23,679	24,169	24,655	23,700	25,414	+1,245	+759
経常収支(百万円)		302	535	5	578	199	▲336	+194



(2) 安芸津病院の取組状況等

令和元年度は、地域住民の健康を支える取組として、地域の介護施設等との連携強化を図るとともに、地域の長期入院ニーズに対応するため、平成29年度に増床した地域包括ケア病床を活かして、引き続き地域包括ケア体制の強化を行っている。

また、新たな外来の取組として、新たな専門外来やアウトリーチクリニックを開始し、増収対策の取組強化を行っている。

令和2年度は、引き続き予防医療の推進や地域包括ケア体制の充実・強化を図るとともに、外来に係る新たな取組等を継続して実施し、収支の改善に取り組んでいく。

① 令和元年度の主な成果及び令和2年度の主な取組

<危機管理対応・医療機能の強化（患者受入体制の強化）>

項目	令和元年度の主な成果及び令和2年度の主な取組
災害対策の強化	○耐震化に向けた検討 ・次期経営計画に反映させるため、旧棟の耐震化に向けた検討を開始（R1.9～）
予防医療の推進	○人間ドック・がん検診の件数増に向けた取組 ・医療公開講座、地域イベント、地元企業や行政機関への訪問による健診受診促進 ・安芸津病院運営支援に係る事務会議（H29～関係3市町で構成）を通じた受診率向上等に向けた取組の検討 健診件数（H30 2,838件 R1 見込 2,790件 R2 目標 2,790件） 内視鏡件数（H30 1,650件 R1 見込 1,824件 R2 目標 1,900件）
地域との連携 （地域包括ケアの推進）	○介護施設等との連携強化 ・地域の介護施設等との協議会（H28 設置）へ新たに2施設が加入し、ケアマネージャーを有する町内の全介護保険施設が参加するネットワークが完成（H30.6） ・病院の認定看護師による他病院や介護施設等への感染症予防対策や認知症対策等を指導を実施し、地域の医療・介護機能を向上 訪問看護実施数（H30 2,196件 R1 見込 2,040件 R2 目標 2,100件） ○地域包括ケア病床（急性期後のリハビリ、在宅復帰に向けた支援）の拡充（H29.4～） ・長期入院ニーズに対応し、平成29年度に21床から29床に8床増床、高い稼働率を維持 地域包括ケア病床稼働率（H30 93.1% R1 見込 94.6% R2 目標 98.0%）

<医療の質と患者満足度の向上>

医療の質と患者満足度の向上	○TQM活動や5S活動の推進 ・広島病院の改善推進部と連携し、TQM活動、5S活動の推進 ○ジェネリック薬品の導入促進による患者医療費負担の軽減 ジェネリック使用数量割合（H30 86.1% R1 見込 90.5%） ○新たな外来の取組 ・整形外科の専門外来として、「骨粗鬆症外来」を新たに開始（R1.10～） ・呉共済病院忠海分院において、アウトリーチクリニックを開始（R1.10～）
---------------	---

<収支改善の取組>

増収対策の取組強化	○訪問診療の取組の継続等による診療報酬の取得の継続 ・地域包括ケア入院医療管理料1（H30.7～） ○看護体制の強化による新たな加算の継続 ・看護職員配置加算（H30.5～） ・看護職員夜間配置加算（H30.5～） ・急性期看護補助体制加算（H30.4～）
材料費・経費等の費用節減	○薬品費の節減 ・使用薬品を広島病院と共通化し、両病院共同で購入価格の適正化を推進 共通化品目割合（H30 98.3% R1 見込 98.4%） ○光熱水費等の経費の一層の節減

② 経営状況（経営目標）

業務の状況		H30 (実績)	(A)R1 (当初)	(B)R1 (見込)	R2 (目標)	(C)R2 (当初)	比較	
							C-A	C-B
患者数 (人)	入院延患者数	28,668	32,595	30,244	32,140	30,637	▲1,958	+393
	病床利用率	80.1%	90.9%	84.3%	88.1%	85.6%	▲5.3%	+1.3%
	外来延患者数	64,782	63,936	65,141	67,456	65,612	+1,676	+471
入院単価(円)		33,737	33,910	33,431	33,364	33,598	▲312	+167
外来単価(円)		7,447	7,307	7,567	7,482	7,615	308	+48
経常収益(百万円)		1,900	2,006	1,938	2,012	1,977	▲29	+39
経常費用(百万円)		2,035	2,065	2,073	2,002	2,109	+44	+36
経常収支(百万円)		▲135	▲59	▲135	10	▲132	▲73	+3
経常収支の状況(百万円)		<p> 経営計画の目標 経常収支黒字 </p>						

(3) 病院事業全体（経営状況）

業務の状況		H30 (実績)	(A)R1 (当初)	(B)R1 (見込)	R2 (目標)	(C)R2 (当初)	比較	
							C-A	C-B
患者数 (人)	入院延患者数	228,278	243,222	229,854	257,310	234,789	▲8,433	+4,935
	病床利用率	80.6%	85.6%	86.0%	88.1%	88.1%	+2.9%	+2.1%
	外来延患者数	347,100	324,177	335,159	381,747	329,187	+5,010	▲5,972
入院単価(円)		71,351	72,153	74,060	65,423	75,323	+3,170	+1,263
外来単価(円)		18,760	19,626	20,237	16,872	21,536	+1,910	+1,299
経常収益(百万円)		25,881	26,710	26,598	26,290	27,590	+880	+942
経常費用(百万円)		25,714	26,234	26,729	25,702	27,523	+1,289	+794
経常収支(百万円)		167	476	▲131	587	67	▲409	+198
経常収支の状況(百万円)		<p> 経営計画の目標 経常収支黒字 </p>						

3 財務状況

(1) 比較予定損益計算書

(単位：千円)【税抜】

科 目	R1 決算 見込(A)	R2 当初 予算(B)	差 引(B-A)
病院事業収益 a	26,552,976	27,538,047	985,071
医業収益 b	24,447,354	25,418,804	971,450
入院収益	17,018,415	17,680,206	661,791
外来収益	6,756,228	7,061,707	305,479
その他	672,711	676,891	4,180
医業外収益 c	2,075,622	2,089,243	13,621
特別利益 d	30,000	30,000	0
病院事業費用 e	26,703,577	27,476,598	773,021
医業費用 f	25,058,409	25,911,809	853,400
給与費	13,034,503	13,297,921	263,418
材料費	7,402,577	7,797,538	394,961
減価償却費	1,371,443	1,411,751	40,308
その他	3,249,886	3,404,599	154,713
医業外費用 g	1,596,567	1,529,791	▲ 66,776
特別損失 h	48,601	34,998	▲13,603
当年度純損益(a-e)	▲ 150,601	61,449	212,050
経常収支(b+c)-(f+g)	▲ 132,000	66,447	198,447

(2) 予定キャッシュフロー計算書

(単位：千円)【税抜】

科 目	R1 年度末	R2 年度末
I 業務活動によるキャッシュフロー		
当年度純損益	▲ 150,601	61,449
退職給付等（退職給付，賞与，貸倒）の引当金	21,515	17,757
減価償却費	1,371,443	1,411,751
固定資産の除却	9,041	9,112
長期前払消費税償却・繰延勘定償却	63,669	62,817
長期前受金戻入額	▲ 480,815	▲ 469,626
その他（未収金・未払金の増減等）	186,880	▲ 199,597
業務活動によるキャッシュフロー	1,021,132	893,663
II 投資活動によるキャッシュフロー		
固定資産の取得等	▲ 811,485	▲ 910,220
その他（一般会計負担金等）	871,871	888,986
投資活動によるキャッシュフロー	60,386	▲ 21,234
III 財務活動によるキャッシュフロー		
企業債の発行	846,000	1,044,500
企業債等（企業債，基金借入金）の償還金	▲ 2,639,906	▲ 2,498,185
一般会計出資金	3,607	1,741
財務活動によるキャッシュフロー	▲ 1,790,299	▲ 1,577,859
IV 資金増減額	▲ 708,781	▲ 705,430
V 資金期首残高	1,757,781	1,049,000
VI 資金期末残高	1,049,000	343,570

(3) 比較予定貸借対照表

(単位:千円)【税抜】

科 目	R1 年度末		R2 年度末		差 引(B-A)	
	金 額(A)	構成比率	金 額(B)	構成比率		
資産の部	固定資産	17,109,197	75.6%	16,720,790	77.1%	▲ 388,407
	有形固定資産	16,694,435	73.8%	16,273,496	75.3%	▲ 420,939
	無形,その他の資産	414,762	1.8%	447,294	2.1%	32,532
	流動資産	5,509,608	24.4%	4,969,558	22.9%	▲ 575,923
	現金・預金	1,049,000	4.6%	343,570	1.6%	▲ 705,430
	未収金, その他	4,460,608	19.8%	4,625,988	21.3%	165,380
	うち貸倒引当金	▲ 33,082	▲ 0.1%	▲ 33,082	▲ 0.2%	0
資 産 合 計	22,618,805	100.0%	21,690,348	100.0%	▲ 928,457	
負債の部	固定負債	16,182,612	71.5%	14,604,992	67.3%	▲ 1,577,620
	うち企業債等	10,345,062	45.7%	8,762,443	40.4%	▲ 1,582,619
	うち退職給付引当金	5,837,550	25.8%	5,842,549	26.9%	4,999
	流動負債	6,628,918	29.3%	6,802,281	31.4%	173,363
	うち企業債等	2,624,438	11.6%	2,627,457	12.2%	3,019
	うち賞与引当金	572,521	2.5%	585,278	2.7%	12,757
	繰延収益(長期前受金)	1,660,677	7.3%	2,073,287	9.6%	412,610
負 債 合 計	24,472,207	108.1%	23,480,560	108.3%	▲ 994,629	
資本の部	資本金	29,023,108	128.3%	29,024,849	133.8%	1,741
	自己資本金	29,023,108	128.3%	29,024,849	133.8%	1,741
	うち繰入資本金	28,462,477	125.8%	28,464,218	131.2%	1,741
	剰余金	▲ 30,876,510	▲ 136.5%	▲ 30,815,061	▲ 142.1%	61,449
	資本剰余金	684,755	3.0%	684,755	3.2%	0
	利益剰余金(累積欠損金)	▲ 31,561,265	▲ 139.5%	▲ 31,499,816	▲ 145.2%	28,557
	繰越欠損金年度末残高	▲ 31,410,664	▲ 138.9%	▲ 31,561,265	▲ 145.5%	▲ 150,601
当年度純損益	▲ 150,601	▲ 0.7%	61,449	0.3%	212,050	
資 本 合 計	▲ 1,853,402	▲ 8.2%	▲ 1,790,212	▲ 8.3%	63,190	
負債・資本 合 計	22,618,805	100.0%	21,690,348	100.0%	▲ 928,457	